

会議等名	平成 29 年度第 1 回海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会
日 時	平成 29 年 5 月 26 日（金） 午後 2 時から 4 時 05 分
場 所	海老名市役所 6 階 第 2 委員会室
出席者	<p>委 員 : 葉養委員、城向委員、加藤委員、萩原委員、三木委員、 上田委員、梅崎委員 (佐藤委員欠席)</p> <p>事務局 : 海老名市教育委員会 伊藤教育長 岡田教育部長、金指教育部次長、吉川教育総務課長、 加賀施設係長、大杉副主幹、工藤主事</p> <p>傍聴者 : 1 名</p>
概 要	<p>※開会に先立ち、委嘱式を実施</p> <p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 委員及び事務局自己紹介</p> <p>3 委員長及び委員長職務代理者の選出 ※互選により選出 委員長：葉養委員、委員長職務代理者：城向委員</p> <p>4 議 事</p> <p>議題</p> <p>(1) 海老名市の教育と学校づくりについて 資料 1～1-4 に基づき伊藤教育長より説明 《質疑・意見等》 (委員) 地域への開放もあるが、児童の安全の観点から部外者が入れないよう門などに鍵をかける動きもあると思う。海老名市内の小中学校の実情はどうなっているか。 ➤ (事務局) 神戸の事件を受け、門を閉め、学校には安全監視員がいる。 (委員) では、学校に一般の人は入れないのか。 ➤ (事務局) 受付し来校者用の名札をつければ入校ができる。 (委員) 休日などに孫が来た際、遊ぼうと思ったが、鍵がかかっているのではとと思っていた。 ➤ (事務局) 授業時間内は安全監視員がいるが、放課後であれば入校できる。</p> <p>(2) 文部科学省（国）の動向について (3) 公共施設再編計画との関係について (4) 学校施設再整備計画の概要について (5) スケジュールについて 議題（2）から（5）まで、資料 2-1 から 4-6 に基づき事務局より一括説明</p>

《質疑・意見等》

<委員>学校の長寿命化なので、建物が中心になると思うが、国や市で個性的なものの考えがあるのか。それとも平準化してコスト削減しようとしているのか。

特徴があれば多少古くても長く使っていこうという意見もあると思う。

▶<事務局>まだ事務局として考えているものはない。学校の統合も考えられる。

複合化として考えられるものは、学校の近隣にある施設（スポーツ施設等）と併せ持つことで、学校の色がでてくると思う。

例えば、校舎等の長寿命化・建て直し等する場合には地域の個性を活かすのも考えられる。

現在、複合化等の先進事例の情報収集をしているため、提供していきたい。

<委員>国で策定しているこの解説書には事例が掲載されているだけなのか。

▶<事務局>あくまでも、安全安心といった意味で学校施設を長期に使用するための手法が掲載されているものであって、技術的な解説書となっている。

<委員>海老名市の教育理念に留意して進めていくためには、4～5回までの会議でできるのか不安がある。

今泉小学校区などマンション群が建つ地域では、児童が急増すると思われる。こういった地域は早く決めていかなければいけない問題だと思う。

▶<事務局>今泉小学校はもともと大規模校として設置された学校なので、今のところ余裕はある。

しかしながら西口開発で平成33年には2,000世帯程度の増加が考えられ、推計では200人ほどの児童が増えると試算している。

<委員>自治会では、扇町などができたりして2～3つほど自治会が増えると聞いたが、若い人が少ないと聞いている。子どもが減っていると実感する。

価格帯の問題もあるのかもしれない。

<委員>「資料3-2」(2) 実行計画の1に、40年後に小学校8校、中学校4校とあるが、これをスタートラインとして考えるのか。この計画に拘束力はあるのか。

▶<事務局>この学校数は、40年後の人口推計から算出されたものであるが、拘束力があるものではない。また、地域的な問題もあり、この数字は推計として算出したものに過ぎないため、縛られないでほしい。

<委員>このような具体的な数字はひとり歩きしやすいため、注意が必要である。

<委員>劣化状況調査というのはどのようなところを調査するのか。

▶<事務局>現地を目視で確認している。建物外観は亀裂が入っていないか、屋上は防水シートに劣化がないか、目視確認し、機械設備は、設置年度の把握と外観の確認を行っている。また、コンクリートの劣化状況は把握している。文科省からコンクリート劣化度の指針がここで出たが、コンクリート（躯体）に問題があれば長寿命化はできないものである。

<委員>先ほども意見があったが、駅周辺は人口が増えているが少子高齢化が進んでいる地域もある。その地域に今まで同様の施設が必要であるのか。耐久性等も考慮し使用できる施設であれば用途変更等して使用し続けていくなど、その地域にあった施設にするという考えもあると思う。

#### (5) 自由意見

<委員>自分は校長という立場であるが、500人規模がちょうどよいと思っている。

統合などひとつにまとめて大きくするという考えもあるが、学ぶ場を分散させるというのも手だと思う。

複合化は避けて通れないとは思いますが、義務教育の教員としてはどこの学校にいても同じサービスが受けられるというのが公立学校のあるべき姿だと思う。

例えば、スポーツ施設などと複合化された学校がある学区の児童・生徒は良いと思うが、そういったものが無い学区の児童・生徒と差があつてよいのか。

「越境」という手もあるが、それでは地域とのつながりが無くなり、「おらが学校」とかい離してしまうのではないか。

<委員>学校は地域とともにあるものだ実感している。例えば地域のお祭りなど人が集まる場は学校である。

昔からある学校の近くに住まわれている方には学校が無くなるのは嫌だと思うので、例えば保育園と一緒にするなど複合化して今ある学校を残せるようにしたい。自治会の方の意見も聞きたい。

避難所として体育館が使われるが、行くには階段があり危険なところもあり早急に対処してほしいところもいくつかあるため、こういった計画があるということでもひっくるめて改修できるのかと考えている。

<委員>改修工事時プレハブで過ごし、校庭も狭く運動等ができなかった子がいる。

改修工事が終わりきれいな校舎で過ごせる子どもは良いが、工事中に卒業などしてしまった子どもはかわいそうである。工事は短期間で行ってほしい。

<委員>再整備計画には10年以内の短期の実行計画もあるが、現実の危機的状況にある改修等も同時に考えていかなければならないと感じる。

#### 5 その他

次回、第2回策定検討委員会は、7月上旬開催予定

#### 6 閉 会

以 上